

病院総合専修医 氏名 :

- ※1 病院総合専修医が経験する内容のうち、日本病院会が「◎=必須、○=推奨」と指定する内容を示しています。
- ※2 ※1に従って、研修施設個別の設定を行ってください。推奨項目からは各スキル毎に、3項目以上を必須項目として設定してください。また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば追加してください。
- ※3 病院総合専修医が経験した内容にチェックをしてください。病院総合医認定の際に必要となります。
- ※4 病院総合医認定申請時に病院総合指導医または病院管理者が確認をしてから提出してください。
- ※5 症候・症例については、可能な限り直近で経験した年（西暦）と経験した施設名を記載してください。

1. 多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療によって包括的な医療を展開・実践できる。（インテグレーションスキル）				
2. 患者への適切な初期対応を行い、専門的な処置・治療が必要な場合には、然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼を実践できる。（コンサルテーションスキル）				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
高い倫理観、人間性、社会性をもって総合的な医療を展開する。	◎	◎		
総合診療科もしくはそれに準ずる機能を有する診療部門において外来診療を担当する。	◎	◎		
診断確定及び初期治療は原則として自らが実施する。	◎	◎		
治癒または病院診療の終了（逆紹介を含む）までのプロセスを可能な限り担当する。	◎	◎		
多様な疾病に対して、1日を通じた外来診療を念頭に置き診療を行う。	◎	◎		
患者の入院期間全体を通じて、効率的な検査・治療の日程を計画し、入院期間を適切に設定する。	◎	◎		
患者の社会的背景、心理面、倫理面を含めた多様な問題について討議し、退院後の患者の療養場所の検討を行う。	◎	◎		
病棟全体の患者のコントロールを行い、入退院、転院等を適切に行う。	◎	◎		
専門診療科（院内・院外）へのコンサルト依頼の必要性を判断し、相談・依頼を行う。		◎		
退院後の在宅もしくは介護施設での医療提供を行う。		◎		
学校医や産業医など健康予防に係る活動を行う。		◎		

3. 各専門科医師、薬剤師、看護師、メディカルスタッフ、その他の全てのスタッフとの連携を重視し、その調整者としての役割を実践できる。（コーディネーションスキル）				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
定期的なラウンドやカンファレンス・研修会に参加する。	◎	◎		
患者の状況に応じた判断に基づき、必要な職種を招集し適切な対応を行う。	◎	◎		
各種カンファレンスの進行役を務める。	◎	◎		
患者の病態改善について常に意識して話し合える職場環境を作る。	◎	◎		
臨床倫理の諸問題について常に意識して話し合える職場環境を作る。	◎	◎		
医療スタッフ全体の現況を把握し、適切な対応を助言する。	◎	◎		
退院前あるいは転院後カンファレンスを計画し、地域包括的なチーム医療の活動を促進する。	◎	◎		
退院後、在宅医療が必要な患者に、必要な介護が受けられる環境設定を行う。	◎	◎		

4. 多職種協働による患者中心のチーム医療の活動を促進・実践できる。（ファシリテーションスキル）				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
医療安全管理チームへの参加	◎	◎		
感染制御チームへの参加	◎	◎		
栄養サポートチームへの参加	○	◎		
緩和ケアチームへの参加	○			
口腔ケアチームへの参加	○			
呼吸サポートチームへの参加	○			
摂食・嚥下チームへの参加	○			
褥瘡対策チームへの参加	○	◎		
退院支援チームへの参加	○	◎		
認知症サポートチームへの参加	○	◎		
介護保険の担当者会議への参加		◎		
介護認定審査会への参加		◎		

5. 総合的な病院経営・管理の素養を身につけ、地域包括ケアシステムや日本全体の医療を考慮した病院運営を実践できる。（マネジメントスキル）				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
次に示す講習会・セミナーに参加し、適切な病院経営・管理の能力を身につける。				
臨床研修指導医講習会	◎	◎		
医療安全管理者養成講習会	○	◎		
医療安全管理者養成講習会 継続研修	○	◎		
感染対策に関するセミナー	○	◎		
栄養管理に関するセミナー	○	◎		
マネジメントに関するセミナー	○	◎		
幹部職員に対するセミナー	○	◎		
地域医療に関するセミナー	○	◎		
チーム医療に関するセミナー	○	◎		
医療経営に関するセミナー	○	◎		
経営管理に関するセミナー	○	◎		

病院総合専修医 氏名 :

- ※1 病院総合専修医が経験する内容のうち、日本病院会が「◎=必須、○=推奨」と指定する内容を示しています。
- ※2 ※1に従って、研修施設個別の設定を行ってください。推奨項目からは各スキル毎に、3項目以上を必須項目として設定してください。また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば追加してください。
- ※3 病院総合専修医が経験した内容にチェックをしてください。病院総合医認定の際に必要となります。
- ※4 病院総合医認定申請時に病院総合指導医または病院管理者が確認をしてから提出してください。
- ※5 症候・症例については、可能な限り直近で経験した年（西暦）と経験した施設名を記載してください。

経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認	※5 経験年（施設名）
1. 多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療によって包括的な医療を展開・実践できる。（インテグレーションスキル）					
次に示す症候において、臨床推論に基づく鑑別診断及び初期対応を適切に実施できる能力を身につける。					
ショック	◎	◎			
急性中毒	◎	◎			
意識障害	◎	◎			
全身倦怠感	◎	◎			
心肺停止	◎	◎			
呼吸困難	◎	◎			
身体機能の低下	◎	◎			
不眠	◎	◎			
食欲不振	◎	◎			
体重減少・るいそう	◎	◎			
体重増加・肥満	◎	◎			
浮腫	◎	◎			
リンパ節腫脹	◎	◎			
発疹	◎	◎			
黄疸	◎	◎			
発熱	◎	◎			
認知機能の障害	◎	◎			
頭痛	◎	◎			
めまい	◎	◎			
失神	◎	◎			
言語障害	◎	◎			
けいれん発作	◎	◎			
視力障害・視野狭窄	◎	◎			
目の充血	◎	◎			
聴力障害・耳痛	◎	◎			
鼻漏・鼻閉	◎	◎			
鼻出血	◎	◎			
嘔声	◎	◎			
胸痛	◎	◎			
動悸	◎	◎			
咳・痰	◎	◎			
咽頭痛	◎	◎			
誤嚥	◎	◎			
誤飲	◎	◎			
嚥下困難	◎	◎			
吐血・下血	◎	◎			
嘔気・嘔吐	◎	◎			
胸やけ	◎	◎			
腹痛	◎	◎			
便通異常	◎	◎			
肛門・会陰部痛	◎	◎			
熱傷	◎	◎			
外傷	◎	◎			
褥瘡	◎	◎			
背部痛	◎	◎			
腰痛	◎	◎			
関節痛	◎	◎			
歩行障害	◎	◎			
四肢のしびれ	◎	◎			
肉眼的血尿	◎	◎			
排尿障害（尿失禁・排尿困難）	◎	◎			
乏尿・尿閉	◎	◎			
多尿	◎	◎			
不安	◎	◎			
気分の障害（うつ）	◎	◎			
せん妄	◎	◎			

病院総合専修医 氏名 :

- ※1 病院総合専修医が経験する内容のうち、日本病院会が「◎=必須、○=推奨」と指定する内容を示しています。
- ※2 ※1に従って、研修施設個別の設定を行ってください。推奨項目からは各スキル毎に、3項目以上を必須項目として設定してください。また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば追加してください。
- ※3 病院総合専修医が経験した内容にチェックをしてください。病院総合医認定の際に必要となります。
- ※4 病院総合医認定申請時に病院総合指導医または病院管理者が確認をしてから提出してください。
- ※5 症候・症例については、可能な限り直近で経験した年（西暦）と経験した施設名を記載してください。

2. 患者への適切な初期対応を行い、専門的な処置・治療が必要な場合には、 然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼を実践できる。（コンサルテーションスキル）					
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認	※5 経験年（施設名）
血液・造血器・リンパ網内系疾患（貧血、白血病、悪性リンパ腫、出血傾向、紫斑病等）	◎	◎			
神経系疾患（脳・脊髄血管障害、脳・脊髄外傷、脳変性疾患、脳炎・髄膜炎、一次性頭痛等）	◎	◎			
皮膚系疾患（湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、皮膚感染症等）	◎	◎			
運動器（筋骨格）系疾患（骨折、関節・靭帯損傷、脊柱障害等）	◎	◎			
循環器系疾患 （心不全、虚血性心疾患、心筋症、不整脈、弁膜症、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症等）	◎	◎			
呼吸器系疾患 （呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性肺疾患、肺循環障害、異常呼吸、胸膜・縦隔・横隔膜疾患、肺癌等）	◎	◎			
消化器系疾患 （食道・胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患、胆嚢・胆管疾患、肝疾患、膵臓疾患、横隔膜・腹壁・腹膜疾患等）	◎	◎			
腎・尿路系疾患（腎不全、原発性糸球体疾患、泌尿器科的腎・尿路疾患等）	◎	◎			
内分泌・栄養・代謝系疾患（視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、糖代謝異常、脂質異常等）	◎	◎			
感染症（ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、性感染症、寄生虫感染症等）	◎	◎			
免疫・アレルギー疾患（膠原病、アレルギー疾患等）	◎	◎			
物理・化学的因子による疾患（中毒、アナフィラキシー、環境要因による疾患、熱傷等）	◎	◎			
加齢と老化とリハビリテーション（高齢者総合機能評価、老年症候群等）	◎	◎			
悪性腫瘍（維持治療期の悪性腫瘍、緩和ケア等）	◎	◎			
小児疾患（小児のプライマリー疾患）	◎	◎			

レポートの作成					
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認	
到達目標で示す5つのスキルについて、次の報告・作成を行う。					
インテグレーションスキル（包括的診療の実践から学んだ知見と考察）	◎	◎			
コンサルテーションスキル（適切なコンサルテーションの実践から学んだ知見と考察）	◎	◎			
コーディネーションスキル（医療スタッフ間の調整者としての役割から学んだ知見と考察）	◎	◎			
ファシリテーションスキル（多職種協働による患者中心のチーム医療活動の促進・実践から学んだ知見と考察）	◎	◎			
マネジメントスキル（各種講習会・レポートや自院の運営会議等から学んだ病院経営・管理に関する知見と考察）	◎	◎			